

JOYAMA NEWS

vol. **48**

2020 Autumn

Joyama 通信
福岡教育大学広報誌

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

特集1

2020福岡教育大学の今

特集2

福教大入試情報



国立大学法人

福岡教育大学

特集1 2020福岡教育大学の今

歴史に学び、創造し続ける 福岡教育大学の新しい一歩

福岡教育大学の第16代学長に飯田慎司先生が就任しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大によって世界中が未曾有の事態に直面し、教育現場も過去に例のない局面続きで対応に追われました。本学は、国の緊急事態宣言を受けて入構禁止措置を取り、5月11日より自宅で学べる遠隔授業を開始。6月15日以降、段階的に対面授業を再開し、現在は対面授業と遠隔授業の2つの方法で授業を進めています。就任直後から、こうした異例の状況下で大学の指揮をとられた飯田慎司 新学長。就任から現在までの学内の状況、今後の展望についてお話を伺いました。

対応が急がれた自宅学習の確立 オンライン型、オンデマンド型、 初めて実施した2種類の遠隔授業

——新学長として就任直後に、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令されました。大学はどのような状況でしたか？

飯田学長 今年度は新型コロナウイルスの対応から全てが始まりました。必要な対策は多岐に渡りましたが、何より急がれたのは遠隔授業の確立です。自宅にいる学生の学びの環境として、本学は2種類の遠隔授業を提供しました。1つは、講義をリアルタイムで配信する「オンライン型」。先生と学生をオンラインで結ぶ双方向型の授業で、画面越しではありますが、内容は対面授業とほとんど変わりません。では、全ての科目をオンライン型で実施できるかといえば、インターネット環境や配信設備に限界があり、それは難しい状況でした。そこで、もう1つの方法として推奨したのが「オンデマンド型」です。授業の内容をパワーポイントにまとめ、そこに先生方が音声で解説を挿入。学生はアップロードされたデータを視聴し、その中で与えられる課題に取り組み、レポートなどの成果を先生へ提出する流れです。

——初めての試みである遠隔授業、実施してみていかがでしたか？

飯田学長 オンライン型は、通信等のトラブルさえなければ従来の対面授業とほぼ同じだと感じました。勝手が違うのは、オンデマンド型です。先生とリアルタイムでつながっていませんから質問はメール等で投げかけ、返答を得るまでにタイムラグが生じます。しかし、リアルタイムでないことは、裏を返せば学ぶ時間を自由に選べる長所にもなります。朝でも夜でも学ぶタイミングを自分で決められ、繰り返し視聴することができ、分からなくなれば巻き戻して確認するなどマイペースに学べるのはオンデマンド型の特長といえます。

——6月15日以降、段階的に対面授業が再開されました。対面授業の実施にあたってどのような課題がありましたか？

飯田学長 全国的にみれば対面授業を再開していない大学が3割程度あり、正解は一つではない状況でした。対面授業の再開にあたっては、手洗いや消毒、マスク着用、換気、座席の間隔など考え得る対策を全て実施し、さらに学生一人ひとり、いつどの教室でどの席に座ったかを逐一記録し、万一の際の感染拡大に備えました。現在まで無事に対面授業を実施できているのは、全ての学生、教職員、スタッフのおかげです。協力に深く感謝しています。



CONTENTS vol. 48

- 02 特集1
2020福岡教育大学の今
- 10 特集2
福教大入試情報
- 14 福教大NEWS
- 19 教員紹介
&学生から見た先生の魅力
- 20 サークル紹介
軍侍
音楽堂
- 21 第25回 福教大卒OB&OG紹介
那珂川市立片縄小学校教諭
山崎 祐未さん
- 22 TOPICS
令和3年度から福岡教育大学大学院が
変わります！
表紙モデルの福教大生
福岡教育大学基金のご案内
- 23 キャンパスからの便り



いいだ しんじ
飯田 慎司学長

プロフィール
広島県生まれ。小学校から高校まで大分県で過ごし、鹿児島大学へ進学。大学卒業後、広島大学大学院で教育学研究科 教科教育学専攻博士課程前期修了。昭和61年に本学へ着任。副学長、教育学部長等を歴任し、令和2年4月に学長就任。数学教育学、算数・数学科教育が専門で、小学校の算数、中学・高校の数学の授業づくりをはじめ指導法を研究。(社)九州数学教育会会長などを歴任。



コロナ禍で対面授業の課題が浮き彫りに 口述型授業から脱却し、 学生の「思考する力」を育てる

——飯田学長は数学教育学を専門に、長年、現場の先生方と指導法の研究に取り組んでおられます。「子どもたちの学ぶ力・学ぶ喜びを引き出す指導」の観点から、対面授業・遠隔授業についてのお考えを聞かせてください。

飯田学長 不測の事態を理由に多くの教育現場で遠隔授業が導入されましたが、それが対面授業の在り方を見直すきっかけになっているように思います。従来の対面授業は、小中高、また大学においても、教科書にある内容を教員がより分かりやすく口述で解説し理解させることに比重が置かれていました。それは文部科学省が学習指導要領で提唱する「三つの柱（※注釈）」のうちの、知識・技能の習得にあたる部分ですが、まさに今回、オンデマンド型で代替えされました。

つまり、オンデマンド型のようなシステムを利用して自主学習することで、基本的な知識は習得できるわけです。それならば、わざわざそれを対面授業で行う必要があるのか。対面授業は知識習得の先にある、学びの場へ昇格させても良いのではないかと。つまり、これまで対面授業で行っていた教科書の内容理解は各自が自主学習で行い、それを踏まえて思考したことを教室へ持ち寄り、対面授業でディスカッションするような方法が「思考力・判断力・表現力」、また「学びに向かう力・人間性」の育成に通じるのではないかと思います。

——教科書にある学習内容を自宅で予習し、その上にある本質的な課題を授業で掘り下げる。様々な教育現場で、そうした「反転授業」がいよいよ始まっていくのかも知れませんね。

飯田学長 今後しばらくは遠隔授業と対面授業をハイブリッドで行うことになるはずです。限られた対面授業をより実りあるものにするには、従来のような口述型授業からの脱却が必要だと気づいている大学人は少なくないと思います。

また、本学は教員養成大学という観点からも、積極的に新しい学習方法を模索していく使命があると考えています。なぜなら、反転授業やアクティブラーニングは小中高の教育においても重要な課題とされているからです。文部科学省は、子どもたちの教育ICT環境の実現に向けて「GIGAスクール構想」を掲げており、タブレット端末などで自宅学習を行い、授業では各自の考えをディスカッションするような学習法が今後スタンダードになっていく可能性は十分あります。そうなれば当然、教員にはそれを指導する力が求められます。多くの学生は教育現場に出たとき自分が受けてきた授業を出発点にするはずですから、本学の授業においてもより新しい時代の学習指導法を実践していく必要があると考えます。

※文部科学省「三つの柱」

- ①何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
- ②知っていること、できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力など)
- ③どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか(学びに向かう力・人間性など)

現場をリアルに学ぶボランティア活動 手洗いの指導、静かな給食時間など 学校内の新しい生活様式も

——福教大は学生のボランティア活動を推奨しています。今年度の活動はどのような状況なのでしょう？

飯田学長 入構禁止の期間はボランティア活動も全て休止しました。6月15日以降、対面授業やサークル活動を段階的に再開していく中でボランティア活動も再始動したかたちです。本学にはボランティアのサポートシステムがあり、学生はインターネットで募集要項を確認し、応募もオンラインで行うことができます。現在は受け入れ先の態勢も整い、学生の応募もほぼ従来通りに戻っている状況です。

——ボランティア活動は学生のどのような力を養うのでしょうか？

飯田学長 ボランティア活動は正課外であり、「よりよい教員になりたい、成長したい」という学生の意欲が最も現れる活動の一つだと私は考えています。学校現場へ出向き、先生方や子どもたちと間近に接することでしか学べないことはたくさんあります。コロナ禍によって始まった学校内の新しい生活様式もその一つでしょう。マスクを着けて授業を受けたり、静かに給食を食べたり、こまめな手洗いの指導も行っているはずです。先生方が子どもたちや学校現場をどのように守っているかを知ることの良い経験だと思います。

本実習は例年通り実施予定 多様な実習で体験的な学びを応援

——「理論と実践の往還」として、福教大は教育実習にも注力しています。今年度の教育実習は例年通りに行われるのでしょうか？

飯田学長 本学は3年生の本実習だけでなく、各学年にそれぞれの実習制度を設けており、本年度も実施予定です。1年生の「体験実習」は授業や学級活動など、日常的なクラスの様子、先生の指導を参観するもので、本年度もできるだけ従来通りの実施ができるよう受け入れ先の小中学校にお願いしています。

2年生では「基礎実習」「観察参加」という2つの実習がありますが、今年度は部分的に遠隔で実施します。「基礎実習」は本来、公立と附属のそれぞれの小中学校で授業を参観し、授業研究会を行うものですが、今年度は公立の小中学校の研究発表会が軒並み中止になりました。附属も中止する学校が相次いでいますが、11月末を目途に何らかのかたちで

授業を参観できる日を1日つくれぬものかと検討しているところです。「観察参加」は3年生が本実習を行っている学校に2年生が出向き、3年生の授業研究会を観察するものです。授業研究会とは本実習で行った授業について学生が自ら批評し、質問や意見交換を行うもので、本来であればその場に2年生も参加します。今年は授業研究会をビデオ撮影し、そのVTRを教材としてオンデマンドで視聴する方法で代替します。

——3年生の「本実習」はどうなるのでしょうか？

飯田学長 受け入れ校の協力のおかげで、本実習はほぼ例年通り実施しています。ただし、不透明な状況を加味して、すでに文部科学省からは代替措置の通知も届いています。万一、予定していた受け入れ校で実習を行うことができなかった場合、例えば、受け入れ可能な他の小中学校で本実習と同様の内容を実施することで本実習の要件を満たしたと認められます。

4年生では副免(※注釈)を取得するための「副免実習」、採用試験に合格した学生が参加できる「教育総合インターンシップ実習」があり、この2つの実習は学生の出身校で実施されるのが通例です。そのため、例年がない状況も起こっています。例えば、福岡県からの移動を理由に、2週間、外出が制限されたケース。つまり、実習が始まる2週間以上前には現地入りしなくてはなりませんでした。

教育実習は教員を目指す学生たちにとって重要な学びの体験です。どのような状況にあっても、可能な限り、そうした体験の場を提供できるよう尽力したいと考えています。教育実習やボランティアの担当部署を中心に、既存の受け入れ校との関係性強化を図ること、また長年、教育現場に携わり、校長を歴任されたコーディネーターの先生方のお力も借りながら、新たな実習先・ボランティア活動先の開拓にも注力していきます。

※所属する課程の卒業要件を満たすことで取得できる免許状を主免といい、卒業要件以外となる単位の修得で取得できる免許状を副免という。

教職に就く夢を真摯に追いかけ、先生方の姿から豊かに学んでほしい

——福教大で過ごす4年間で、学生の皆さんにどのような力を身に付けてもらいたいと考えていますか？

飯田学長 ひと昔前とは違い、学生のうちから、教科指導力、学級経営力、生徒指導力、保護者対応力など多様な力を身に付けることが求められる時代だと感じます。カリキュラムの充実はもとより、本学が教育実習・ボランティア活動に力を注ぐのも、そうした側面からの方針です。学校現場に出向き、優れた先生方に出会い、その姿から学ぶことが大切です。良い先生は子どもたちを見れば分かります。教科指導力を例にすれば、先述の「三つの柱」を実践する先生に指導を受けている子どもたちは学



力も高い。ただ正解するだけでなく、設問に対する答の導き方にも驚かされるような発想を見せたり、自分の頭で考える、思考することの重要性を子ども自身も理解していることが伝わってきます。もちろん教科指導力だけが全てではありませんが、面白いもので、一つの力が秀でた先生はそれ以外の部分も優れている場合が多いように思います。

——改めて「教員の魅力」とはどのようなものだと思いますか？

飯田学長 本学の学生たちに教員を目指したきっかけをたずねると、多くの学生が「小中高校で出会った先生に憧れた。自分も恩師のようになりたくて教員を目指している」という話を聞かせてくれます。きっと彼/彼女らには、恩師の姿と共に、素敵な思い出があるのではないのでしょうか。教職の魅力は、まさにそこだと私は思っています。教員にとって何よりうれしいのは子どもたちの成長です。児童や生徒の活躍がそのまま先生の喜びになる。自分のことのように喜んでくれる先生の温かい姿にふれた子どもたちが、教職を志すのではないのでしょうか。実は大学教育もその点は全く同じです。本学で学んだ皆さんが教員となり、成長していくことが私たち教職員の大きな喜びです。「教育」と名の付くものの喜びは常に、子どもたちの成長と共にあると私は思います。

令和7年度に特別支援学校が設立 豊かな学修環境の充実を図り、 教員養成の拠点大学として使命を果たす

——最後に、福岡教育大学の展望をお聞かせください。

飯田学長 九州の教員養成の拠点大学として、今後も力のある教員の育成に尽力して参ります。そのための体制づくりも図っていく考えで、例えば、地の利を活かしたボランティア活動の促進もその一つです。本校の近隣には3校の小学校があり、それぞれ大規模校、中規模校、小規模校と規模が異なり、3校をめぐれば違った現場体験ができます。本学からの距離も近く、2コマ程度の空き時間を使って気軽にボランティアに行けるような仕組みも検討していく考えです。また、令和7年度には構内に福岡県立特別支援学校の設立が決まっており、こちらでも実習やボランティア活動を行っていく予定です。

さらに、教職大学院も拡充をはかります。これまでの修士課程から、教科教育のコースを教職大学院に移設。受け入れ人数も増員し、今後さらに多くの学生、また現職の先生方の学びの場としても一層の充実を図る考えです。

本学が教員養成大学として誕生して70年。その歴史を通じて、どのような状況下にあっても、教育は不可欠であり、それを導いてゆく教員の育成もまた必須です。「豊かな知を創造し、力のある教員を育てる」の基本理念のもと、今後も力強い教員養成に尽力して参ります。

学生支援課が所掌した 新型コロナ禍に関して実施した 学生支援の主な取組について紹介します。

学生支援

経済的支援

新型コロナによる社会状況により、学資や生活を支える、生計維持者(保護者)の方の収入の減少やアルバイトの減少など、経済的なダメージを受けている学生の皆さんも大勢います。学生支援課では、「日本学生支援機構(JASSO)」など、公的機関が実施する様々な支援についての情報提供や、対応を行ってきました。

また、本学独自の支援として次の2つの経済的支援を実施しましたのでご紹介します。

新型コロナウイルスに係る緊急学生支援プロジェクト(5月と6月の2回実施)

保護者等の家計急変や学生のアルバイト収入減などで生活が困窮している学生に対し、学生の皆さんの学修支援を目的とする本学への寄附金である「修学支援事業基金」を原資として、1人あたり3万円の生活支援金の給付を行いました。5月と6月の2回にわたって申請を受け付け、申請した757名の学生への支援を実施しました。修学支援事業基金にご寄附いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

【支援金額】1人3万円×申請者757名＝合計22,710,000円

遠隔授業(オンライン授業)実施に伴う教科書の宅配販売の送料等の助成

遠隔授業(オンライン授業)の実施に伴い、生協、金文堂書店販売の教科書を宅配することに伴う送料等を、福岡教育大学後援会及び大学にて負担しました。後援会様から150万円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

【支援金額】配送料2,908,150円＋配送用資材85,787円＝合計2,993,937円

課外活動(サークル活動)への働きかけ

将来の教員としての資質能力を高める上で、本学での授業・学修はもちろん重要ですが、教育課程外の活動である学生ボランティア活動、サークル活動(部活動)も大きな役割を果たしています。新型コロナの感染拡大防止のことで考えれば、授業は全てオンラインのみ、課外活動は一切禁止…とすればよいのかもしれませんが、それでは教育大学の学生生活が成り立ちません。大学としての役割を果たす上で「ゼロリスク」を目指すのは極めて困難です。そこで、大学として対面授業再開のガイドラインを検討・策定し、それに則った「リスクの低減」がきちんと実施されているものから、対面授業を順次再開してきました。サークル活動もこれに準じ、課外活動のガイドラインを策定し、それを元に各サークル代表者を集め説明会を実施しました。感染防止対策を講じた活動について各サークルに考えてもらい、それぞれの活動や競技の特性に応じた各競技団体等が定めたガイドラインも吟味しながら、3週間で1スパンとして綿密な活動計画を立ててもらいます。そして、顧問教員の承認と学生支援課による点検を実施します。点検で一発OKはほとんどなく、計画を何度も練り直してもらい、許可された活動を各サークルが慎重に実施しています。まだ活動を再開していないサークルもあり、キャンパスライフの「全面再開」はなかなか難しいようです。

困難な状況ですが、学生生活が少しでも安全かつ充実したものになるよう、これからも学生の皆さんと一緒に知恵を絞っていきたくと考えています。

活動の活動レベル(フェーズ) (※各活動単位がガイドライン などを参考に策定)	活動予定日時	活動予定 時間	参加予定人数	活動場所	活動予定内容 (概要事項)
7月15日からの講	成務館	17:00-18:00	100名	成務館	講義 ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音) ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音) ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音)
7月20日からの講	成務館 アクトン 2F会議室	17:00-18:00	100名	成務館 アクトン 2F会議室	講義 ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音) ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音) ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音)
7月25日からの講	成務館 アクトン 2F会議室	17:00-18:00	100名	成務館 アクトン 2F会議室	講義 ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音) ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音) ・15分間の講義(録音) ・15分間の質疑応答(録音)

※1は遠隔授業・対面して授業です。活動予定内容は対面でも異なります。(※その旨記載のこと)
 ※講義予定日が変更された場合は変更を記入して下さい。
 ※新型コロナウイルス感染症の拡大等の状況によっては、活動内容を変更すること。
 活動再開計画を策定するにあたって参考にした関係団体・調整等のガイドライン、方針などがありましたら、記入して下さい
 活動再開計画を策定するにあたって参考にした関係団体・調整等のガイドライン、方針などがありましたら、記入して下さい
 ※活動再開計画を策定するにあたって参考にした関係団体・調整等のガイドライン、方針などがありましたら、記入して下さい
 ※活動再開計画を策定するにあたって参考にした関係団体・調整等のガイドライン、方針などがありましたら、記入して下さい

サークル活動再開計画書の例

健康科学センターの新型コロナウイルス感染症対策への取り組み



健康科学センターとして、新型コロナウイルス感染症への早期対応・経過観察を行うために、以下の取り組みを4月より行っています。

1 コロナ対応専用メールについて

現在、新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者だけでなく、発熱や風邪症状を認める場合には、新型コロナウイルス感染症の可能性を念頭にした対応が求められています。

そのため、健康科学センターでは、「感染者・濃厚接触者と認定された場合」「体調不良の場合(37.0℃以上の発熱、風邪の諸症状など)」の連絡方法として、コロナ専用メールを新設しました。連絡があった方には、コロナ対応専用メールを通して毎日「健康記録表」で体調の報告をしてもらい、健康科学センターの医師、看護師が体調面のフォローやアドバイスをを行っています。状況に応じて保健所からの指示を確認し、教育支援課、学生支援課と連携しながら大学全体で対応を行っています。

※詳しい内容については、「【重要】体調不良に伴う欠席等における大学への連絡・届け出について」を大学HPに掲載するとともに、学生にはポータルを通じて通知しています。

2 センター利用時の対応

健康科学センターでは、安心して利用できるよう以下の事を実施しています。

- ▶ 健康科学センターを利用する方全員に「利用申込書」の記入と体温測定
- ▶ 定期的なセンター内の診察室、相談室、ホール、トイレなどの消毒(清拭)
- ▶ 診察室や休憩室のベッドには使い捨てのシーツを使用
- ▶ 常時換気する(窓を開ける、サーキュレーターを使用する)
- ▶ ソファーに座る際の間隔、診察の際の間隔をあけて、密接にならないようにする



3 不安に感じている方へ

連日新型コロナウイルス感染症関連のニュースが流れ、不安に感じている方もおられると思います。健康科学センターでは、身体だけでなく、心のケアも行っています。気軽にご相談ください。カウンセリングを希望される場合は、電話もしくは予約専用メールよりご予約ください。

※詳しくは、福岡教育大学 健康科学センター ホームページの「カウンセリング相談方法」に掲載しています。



手洗いや消毒、咳エチケットを励行



健康科学センター外観



健康科学センターの椅子

4月7日の緊急事態宣言を受けて大学も一時閉鎖。構内への立ち入りが禁止された中で、皆さんはどんな毎日を送っていたでしょうか。1年生から3年生の皆さんに伺いました。

入学しても大学に登校できない日々 不安を打破し切り開いたキャンパスライフ

私の大学生生活は実家で始まりました。本来なら、大学構内にある寮で新生活を始める予定でしたが、荷物を運びこんだその日のうちに実家へとんぼ返り。友だちが一人もいないまま、5月に始まった遠隔授業も実家で受講、分からないことがあっても気軽に聞ける相手がない…。不安だらけのスタートでしたが、前を向いていけば何とかなるものです。同じクラスの誰かが作ってくれたグループLINEを見つけ、さっそく登録。分からないことは、まだ一度も会ったことがないクラスメートにLINEで相談するようになりました。遠隔授業でボランティア活動の重要性を学び、「私も何か始めたい」とオンラインで勉強を教える学習支援ボランティアに参加し始めたのが5月。さらに1カ月が過ぎた6月に初めて大学に登校、対面授業を受講し、女子寮での新生活がスタートしました。先日は1年次の教育実習(体験実習)で小学校へ。対面で接する子どもたちは本当に可愛らしく、初めて「先生!」と呼ばれ、嬉しさと同時に身の引き締まる思いがしました。この先も事態がどう変わっていくか予測はつきませんが、

どんな状況でも自分のやりたいことが明確なら「私はやるんだ」と立ち返ることができる。強い意思と目標をもってこれからの大学生活を充実させていきたいと思っています。



初等教育教員養成課程 1年生

に ひら なな み

仁衡 七海さん

ボランティア活動も徐々に再開 学校現場を守る先生方の姿を間近に

入学当初から、工作やキャンプなど遊びを通して子どもたちと交流するボランティアの部活動「ゆかいくらぶ」に在籍しています。子どもは予想できない行動をするし、一人ひとり個性が違う。どんなふうに声をかけ、どう接すればその子が心を開いてくれるのか、経験を通して様々なことを学べるのがボランティアの面白さだと思っています。「ゆかいくらぶ」はイベント活動が中心のため現在は休止中ですが、大学のボランティアコーディネーターの先生の紹介で6月から新たに岡垣町の小学校の学習支援サポーターを始めました。「ゆかいくらぶ」との大きな違いは、朝の登校から放課後まで丸1日を学校で過ごすこと。子どもたちと長い時間、接することができ、また先生方の1日の仕事をつぶさに見ることができます。その中で、新型コロナによる学校生活の変化も感じています。臨時休校による学習計画の変更をはじめ、私の通っている学校では給食の配膳や片付け、放課後の机の消毒なども担任の先生の仕事です。大変な思いをされながら学校現場を守っている先生方の姿を目の当たりにできる

のも貴重な経験だと思っています。数年後、私が先生になったとき世の中がどう変化しているかは分かりませんが、どんな状況にも柔軟に対応し、子どもたちの学びを守ることができる先生に私もなりたいです。



初等教育教員養成課程 2年生

わた なべ み く

渡邊 未来さん

遠隔授業の合間に読書、運動、ピアノ いよいよ始まる本実習に不安と期待の思い

ステイホームの期間中、リアルタイムに講義が配信される「オンライン授業」と、課題提出を主とする「オンデマンド授業」の2種類の遠隔授業を受けました。課題の量が多く、提出期限を守りながらクリアしていくのは簡単ではありませんでしたが、今まで経験できなかった時間を過ごせた期間でもありました。本に手を伸ばすことが増え、気がつけば15冊ほど読破。ほとんどしていなかった運動も始め、4kmのランニングと縄跳びが日課になり、約2カ月で体重を5kg絞る結果に。さらに、電子ピアノを購入し、中学3年まで習っていたピアノを懐かしくおさらいしました。6月以降は遠隔授業を受けながら、対面授業も再開し、間もなく3年次の本実習も始まります。僕は高校時代、好きだった書道の力を恩師のおかげで伸ばすことができ、それをきっかけに子どもの得意を見出す教育分野に関心を持ちました。ただ第一志望である高校の書道教員は採用数自体が少ないので、学校現場で教職に就くか、ほかの道に進むかは、本実習を経験したうえで決めようと考えていました。今年の本実習が例年通り実施

されるか危ぶんでいましたが、期間の縮小も少なく実施されると聞き、今は期待と不安でいっぱいです。貴重な学びの機会を得られることに感謝し、精いっぱい臨みたいと思います。



中等教育教員養成課程 書道専攻 3年生

なか むら りょう た

中村 遼太さん

サークル・部活動も一時は活動休止に 初めて尽くしの大学生活を経験しました

僕はバスケットボールのサークルに所属しています。緊急事態宣言を機に大学構内に入ることが禁止され、サークル活動も休止になりました。実家に帰ることもできず、下宿の部屋で一人きり。間もなく遠隔授業が始まりましたが、オンライン授業のアクセスに手間取ったり、課題のスケジュール調整に頭を抱えたり、慣れるまでは悪戦苦闘の連続…。アルバイトも休みになり生活費をどうしようと思っていた矢先、見つけたのが福教大の緊急学生支援。さっそく申請し、3万円の支給金を受け取ることができて助かりました! 初めての経験が続きましたが、いざばん堪えたのは人と会えないことかも知れません。大学が再開し、サークル仲間と徐々に顔を合わせたとき「人と話すってこういう感じか…」と今まで感じたことのない気持ちに。人恋しいのは皆同じなのか以前より多くのメンバーが集まり、また、新入生メンバーと初めて顔を合わせることができたのもうれしかった。今年の新入生勧誘はオンラインのみで行いましたが、うちに限らず、多くのサークルで例年以上の入会があったと聞いています。

福岡という都会のイメージがありますが、福教大の周辺は緑が豊かでとても静か。様々な学びを深めながら、仲間や友人たちと過ごすのびのびとした大学生活を僕は気に入っています。



特別支援教育教員養成課程 2年生

はら むら いぶ き

原村 歩希さん

新型コロナウイルス感染症に対する学内の主な対応

(2020年2月～7月)



	福岡県内の動き	本学の対応
2020/2/20	福岡県内初の感染者発生	
2020/3/ 6		令和元年度卒業式及び修了式の中止を決定
2020/3/16		令和2年度入学式の中止を決定
2020/3/19	宗像市内初の感染者発生	
2020/4/ 6		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理委員会にて危機対策本部を設置 ・課外活動禁止を決定
2020/4/ 7	福岡県 緊急事態宣言を発令	
2020/4/ 8		<p>新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等に基づく本学の対応の基本方針について」を定め、感染拡大防止に向けて対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度授業開始日程の再変更 令和2年度前期授業開始日を4月20日(月)に繰り下げていたが、福岡県に緊急事態宣言が発令されたことに伴い、さらに繰り下げて5月11日(月)からとした ・学内への入構を原則として禁止
2020/5/11		<ul style="list-style-type: none"> ・前期授業を遠隔授業で開始 ・新型コロナウイルスに係る緊急学生支援プロジェクトを実施<1回目> (生活が困窮している学生に1人あたり3万円の生活支援金の給付等)
2020/5/14	福岡県 緊急事態宣言を解除	オープンキャンパス2020の中止およびWeb 等を活用したオープンキャンパスの開催を決定
2020/6/ 8		キャリア支援センターでの就職指導など、本学が許可した場合に限り入構を許可
2020/6/15		一部対面授業開始、授業など必要不可欠な場合に限り入構を許可
2020/6/22		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに係る緊急学生支援プロジェクトを実施<2回目> (生活が困窮している学生に1人あたり3万円の生活支援金の給付等)
2020/6/26		学内入構禁止を解除
2020/7/ 1		福教大祭の中止を決定
2020/7/10		令和2年度後期開放授業プログラム開講中止を決定
2020/7/16		令和2年度大学開放事業「教育大へ行ってみよう!」の中止を決定



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について



本学は、新型コロナウイルス感染症に係る国の緊急事態宣言解除を受け、6月15日から段階的に対面授業を開始しております。対面授業を実施するにあたっては、学生へ石けんによる手洗いや消毒液での手指の消毒、通学及び授業受講時におけるマスクの着用を周知徹底するとともに、教室においては学生同士の接触、密集を防止するため席数を制限し、定期的な換気を実施するなどの感染拡大防止対策を講じています。

また、食堂等の厚生施設においても、座席の間引きや利用者数に応じた入店制限、飛沫感染防止用の透明ビニールシートの設置など、感染拡大防止対策を実施しています。

本学は、今後も大学として最大限の感染リスクの低減に努めていきますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



福教大入試情報



本学の入試改革

本学は、教員養成の九州地区広域拠点大学として、これからの学校教育において、さまざまな課題の解決等に率先して取り組むことのできる教員の養成を使命としています。そのため、本学のカリキュラムも、教員に求められる「各教科等での指導」、「学級経営」、「生徒指導」を行うために必要な資質・能力を確実に身につけさせるためのものとなっております。

入学試験においては、このようなカリキュラムを学ぶ上で必要となる、高等学校までで身につけておくべき知識、技能、また、それらを活用して論理的に思考、判断する能力が身についているか否かを見ると同時に、それらと同等もしくはそれ以上に重要な「教員を目指す強い意志と情熱」があるか否か、「主体的・積極的に」さらには「多様な人々と協働して」教員となるために必要な学習に取り組むことができるか否かという視点を大事にしています。

本学の令和3年度入学試験における大きな変更点の一つが、高等学校での学習をいかに評価するのかという点です。高等学校でもこれまで以上に「主体的・対話的で深い学び」が求められますが、そのような学びを行った結果としての調査書の「全体の学習成績の状況」を一定の条件で評価して、加点しようとするものです（初等教育教員養成課程前期日程）。これは前述した『「主体的・積極的に」さらには「多様な人々と協働して」』本学での学習に取り組んでくれる学生を求めるという点を反映したものです。

今後本学がアドミッション・ポリシーにおいて求める、そして本学のカリキュラムポリシーに基づいて編成された教育課程を修め、実践力のある教員となることのできる入学者選抜について様々なエビデンスに基づいて検討して参ります。

最後に、令和3年度入学試験においては、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための入学試験実施を計画し、多くの本学志願者に安心して受験していただける環境整備を進めています。



副学長
(入試・就職担当)

ふじかね みちのり

藤金 倫徳 先生

人間性豊かな教育者を目指そう！

子どもが大好きだから。あの先生との出会いがあったから。

目標を見つけたきっかけは人それぞれかもしれない。

けれど、「教師になる！」その誓いは熱く胸に抱いてきた。

さあ、そんな仲間が集うこの場所で、夢を実現する第一歩を踏み出そう。



本学が入学を期待する人材像

学校教育活動の担い手となる教員の仕事は、単に特定の教科を教えるにとどまらず、幼児・児童・生徒の心身の成長、その後の人生に深い影響を与える全人格的な営みです。

このため、教員を目指す上での基礎として、高等学校生活を通して、各教科についての知識技能を適切に修得していること、自ら主体的に学習に取り組んできたこと、様々な体験や経験により人間的に成長してきたことなどが望まれます。

その上で、大学在学中に、教育者としての使命感や責任感、幅広い視野と豊かな教養、専門的な知識や技能、多様な教育活動を行える実践的力、自らの責任を積極的に果たしていく社会性や協調性、将来にわたって学び続ける力などを積極的に身に付けて、卒業後は小学校、中学校、特別支援学校等の教員として活躍したいという強い意欲を持つ方の入学を期待します。

※本学の
アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)は、
こちらをご覧ください。



本年度の本学入試実施

新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験実施上の配慮事項

新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験実施上の配慮として、本学が大学入学共通テストで指定する教科・科目、個別学力検査の出題範囲、追試験及び調査書の取扱については、以下のように実施します。

(1)大学入学共通テストで指定する教科・科目の取扱は、選択できる教科については、実施する全ての科目より選択可能であるため、特定の志願者が不利になることはなく、また教員を目指した学修を本学で行う上で必要な基礎的な学力を身につけているかを判断する必要があることから、従前のとおりとします。

(2)個別学力検査の出題範囲については、教科書において「発展的な学習内容」として記載されている内容から出題する場合には、設問中に補足事項等を記載するなど、特定の志願者が不利にならないよう配慮します。

(3)試験当日に以下のような場合は受験をすることができません。

- ・新型コロナウイルスに罹患し、試験日までに医師が治癒したと診断していない者
- ・試験直前に保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者
- ・発熱・咳等の症状があり、試験当日の検温で37.5度以上の熱がある者

ただし、それらの理由で受験できなかった志願者を対象に、以下の日程で追試験を実施します。追試験の詳細は決定し次第、本学ホームページでお知らせいたします。

○学校推薦型選抜 (I・II)

令和2年12月12日(土) (必要に応じて12月13日(日)にも実施する場合があります。)

○一般選抜(前期日程・後期日程)

令和3年3月22日(月) (必要に応じて3月23日(火)にも実施する場合があります。)

(4)調査書について、臨時休業等のやむを得ない理由により第3学年の評定を記載できない場合でも、第3学年の記載がないことをもって、志願者が不利益を被ることはありません。

令和3年度入学者選抜試験日程一覧表

入試区分・日程	出願期間	試験日	合格者発表	入学手続期限
一般選抜	前期日程	(※1) 令和3年 1月25日(月)～ 2月5日(金)	令和3年 3月6日(土)	令和3年 3月15日(月)まで
	後期日程	(※1) 令和3年 3月12日(金)～ 3月13日(土)	令和3年 3月21日(日)	令和3年 3月26日(金)まで
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜I (大学入学共通テストを課さない)	(※2) 令和2年 11月28日(土)～ 11月29日(日)	令和2年 12月18日(金)	令和2年 12月25日(金)まで
	学校推薦型選抜II (大学入学共通テストを課す)		令和3年 2月12日(金) ※大学入学共通テスト特例 追試験受験者 2月21日(日)	令和3年 2月22日(月)まで ※大学入学共通テスト特例 追試験受験者 2月26日(金)
私費外国人留学生選抜	令和3年 1月25日(月)～ 2月5日(金)	令和3年 2月25日(木)～ 2月26日(金)	令和3年 3月6日(土)	令和3年 3月26日(金)まで

(※1) 一般選抜(前期日程・後期日程)を新型コロナウイルス感染症等に罹患し、受験することができなかった場合、追試験は、3月22日(月)【必要に応じて3月23日(火)】に実施します。

合格者発表は、3月26日(金)、入学手続期限は、3月30日(火)までとします。

(※2) 学校推薦型選抜I及びIIを新型コロナウイルス感染症等に罹患し、受験することができなかった場合、追試験は、12月12日(土)【必要に応じて12月13日(日)】に実施します。

○新型コロナウイルス感染状況等により、試験日程、試験内容等が変更になる可能性があります。

学生募集要項の公表及び請求方法等

学生募集要項の公表

入学者選抜に関する細目を記載した募集要項及び出願に必要な書類等は、次のとおり公表します。

募集要項等の種類	公表時期(予定)
学校推薦型選抜学生募集要項(願書付)	公表済
一般選抜(前期日程・後期日程)学生募集要項(願書付)	12月上旬

学生募集要項の請求方法

3つの方法で請求できます。

詳しくは、福岡教育大学のホームページをご覧ください。

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/admissions/relevance/contact/list_entrance



WEB OC (オープンキャンパス)

福岡教育大学オープンキャンパスは、例年7月中旬の土曜日に、大学説明会や体験授業、各種相談コーナーなどの様々なプログラムを企画して開催して、毎年、約3,000名の参加者があり、概ね好評を得ておりました。

令和2年度についても年度当初より開催に向けて準備を進めてきたところでしたが、今般の新型コロナウイルス感染予防対策を鑑みて、やむなく従来の大学に向いてもらう大学開放型のオープンキャンパスの開催については中止を決定したところでした。

そのため、今年度は、「福岡教育大学Webオープンキャンパス」として、開催することといたしました。

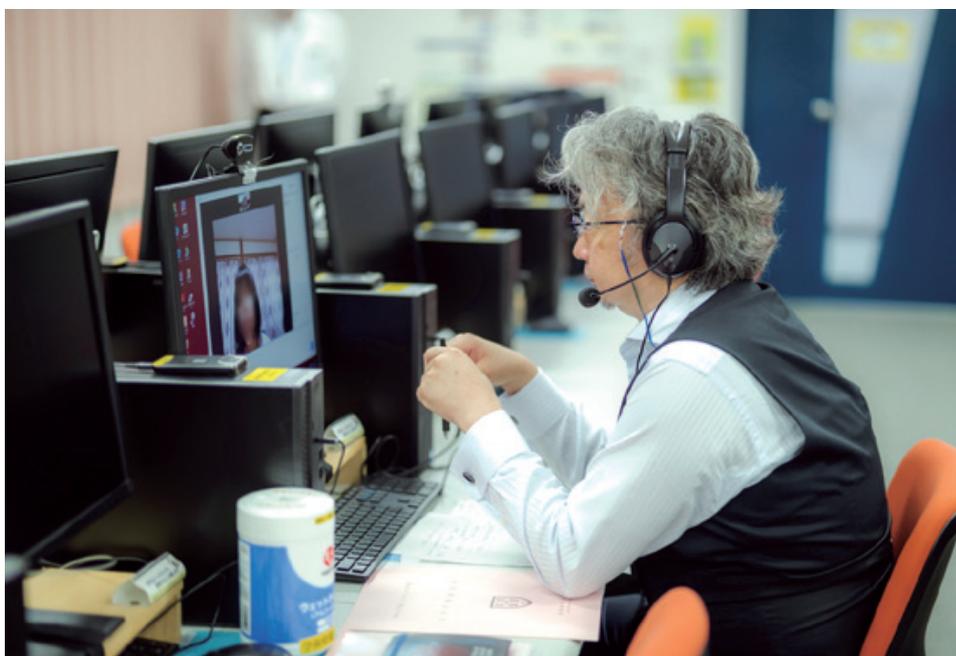
これまでとは異なりますが、このWebの利点をさまざまに活用して、本学の情報をこれまで以上に発信できるように努めたところでした。

この第1段が、以下の各コンテンツを準備してのWebオープンキャンパス2020でした。ここでは、「日時を選ばずに、聞きたいことが知れる」をコンセプトに、パソコンやスマートフォンなどで、ある意味、身近に感じてもらえることが可能になったかと思います。当初の日程の7月18日(土)には、「オンライン個別説明会」を開催するとともに、アンケートを実施して、率直なご意見、ご感想、ご要望をうかがったところでした。

これらを参考に、今後の大学開放型オープンキャンパスの在り方や、Webコンテンツのさらなる充実に努めたいと考えています。

なお、準備した動画は、YouTube上でそれぞれの視点から本学を紹介しています。

①では学長の挨拶、②では理事から全般的な大学概要説明を、③については、課程・専攻等の教育組織ごとの説明を行っています。④では、



オンライン個別説明会の様子

大学施設や屋外風景を、360度カメラで撮影しました。キャンパスマップ上で視点を選びながら、大学内を仮想体験していただけるツールになっています。⑤では、入試・履修・学生生活・留学・就職などのよくある質問をQ&Aに纏めています。これによっても不明な場合などはメールにて回答いたしますので、その際には、お気軽にお問い合わせください。

Webオープンキャンパス2020のコンテンツ

- ①学長挨拶(動画)
- ②理事 大学概要・入試説明(動画)
- ③各課程・専攻の紹介(動画)
- ④大学施設紹介(VRツール)
- ⑤入試・履修・学生生活・留学・就職などのよくある質問 Q&A
- ⑥オンライン個別説明会(Zoomによる個別相談)

Webオープンキャンパス
2020は
こちらをご覧ください



さらに福岡教育大学について知りたい方へ

福岡教育大学がもっとよくわかる「動画で見る」福岡教育大学公式YouTubeチャンネルがあります。

福岡教育大学公式
YouTubeチャンネルは
こちらをご覧ください



■ 広報ビデオ(学長編)

福岡教育大学の教育、そしてこれからの福教大の展望についてお話ししています。特に、学長が教師のすばらしさとやりがいについて語る場面は必見です。



■ 福岡教育大学広報ビデオ(高校生向け)

福岡教育大学の魅力を知るなら、まずは「福岡教育大学広報ビデオ(高校生向け)」をご覧ください。授業の話、大学生活、ボランティア、卒業生(現役の教師)の話など高校生の参考になる1本です。



■ 教職大学院の紹介動画

本学への進学を検討されている方、興味を持たれている方は、是非ご覧いただき、教職大学院生や教員、修了生の生の声をお聞かせください。現在、博多駅Ekivisionでも、期間限定で公開しています。

詳細は本学のHPをご参照ください。その他、ご質問等ございましたら、下記までご連絡ください。

福岡教育大学教職大学院

教職大学院事務室

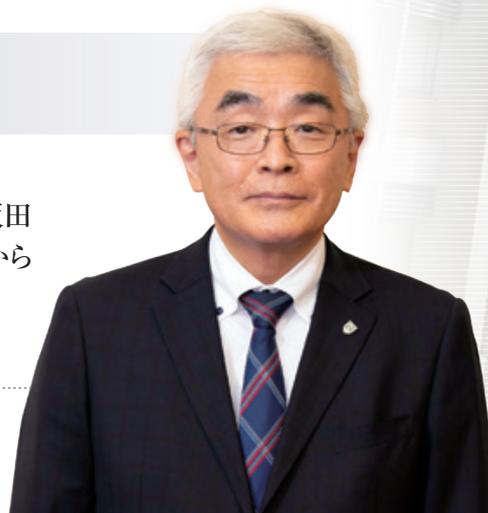
TEL:0940-72-6012 E-mail: grdsptch@fukuoka-edu.ac.jp



1

新体制発足

国立大学法人福岡教育大学第16代学長に、飯田慎司氏が就任しました。任期は、令和2年4月1日から令和8年3月31日までです。



いいだ しんじ
飯田 慎司

プロフィール
広島大学大学院教育学研究科教科教育学専攻博士課程前期修了。昭和61年福岡教育大学助手、同大講師、助教授、教授を経て、平成22年附属久留米小学校長、平成26年副学長、平成27年副学長兼教育学部長等を歴任し、令和2年4月に学長就任。専攻は、数学教育学、算数・数学科教育

本学の基本的な目標は、豊かな知を創造し、教育実践力にあふれた教員を養成することです。教育は国の根幹をなすものであり、その教育に携わる有為な教員を養成するという使命を、自信と誇りをもって果たすことができるように、大学の運営と経営にあたります。

第3期の中期目標・中期計画期間の5年目にあたる令和2年度は、教員養成教育の充実のために、第4期の中期目標・中期計画の策定およびその達成のための基盤を作っていきます。そして、これまでの実績をさらに伸ばしていくとともに、新たな可能性を持った姿を示していきたいと思えます。新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、教育・研究・社会貢献・学内運営の各面において、オンラインの利点を活用する一方で、対面で行うべき活動の要点や効果を再確認します。そして、授業を中心とする教育面はもちろんのこと、その他の面においても、対面とオンラインとを適切に取り入れるというハイブリッド的な工夫を行っていきます。

理事
(企画・教育研究
附属学校
教育組織
カリキュラム担当)



相部 保美

あいべ やすみ

豊かな教養、教科等に関する幅広く深い専門的知識と技能、そして教育実践力を併せ持った人間性豊かな教員の養成を目指して、教育学部・教職大学院の学生組織・入学試験・カリキュラムの改革に取り組んで参ります。

理事
(総務・財務担当)



安部 栄一

あべ えいいち

本学が九州地区のみならず、日本における教員養成及び教師教育のリーダー大学として発展するよう、特に財務基盤の強化と施設整備の充実に努めてまいります。

理事
(国際交流
社会連携担当)



川添 弘人

かわぞえ ひろと

九州教員研修支援ネットワーク事業の充実、県立特別支援学校の設置に向けた福岡県、宗像市との三者連携の推進、県や市町村教委、学校現場との連携協力、グローバル化が進む教育現場に対応した教員の育成に資する取組の充実等に努めて参ります。

副学長
(大学改革
学事総括
評価担当)



大坪 靖直

おおつぼ やすなお

学長を支えて大学改革を推進します。そのために、本学を取り巻く状況と、大学の強みや弱みを可視化することに努めます。

副学長
(学生指導
厚生担当)



甲斐 純子

かい すみこ

豊かな人間性と熱意を有する教育者の育成を目指して、そのためのキャンパスライフの充実に取り組みます。

副学長
(入試・就職担当)



藤金 倫徳

ふじかね みちのり

教員を強く志望する志願者の選抜と、学生の志の実現に向けた就職支援に取り組めます。また教育学部長として、教育学部の一層の発展に努めます。



副学長
(研究担当)



清水 紀宏

しみず のりひろ

科研費獲得のための支援の推進や、学内外の共同による教員養成、教員研修等に関する研究プロジェクトの推進に努めます。

副学長
(学術情報・FD担当)
大学院教育学研究科長
学術情報センター長



小川 亜弥子

おがわ あやこ

教育・研究の活性化のため、学術情報基盤の一層の整備に取り組むとともに、FDの推進により、教育の質の向上や授業の改善が図られるよう尽力します。また、大学院教育学研究科長として、大学院の充実に努めます。

副学長
(入試実施担当)



豊嶋 啓司

とよしま けいじ

「教員になりたい／良い学習指導がしたい」という意欲や熱意など、教員となるための資質・能力を有する学生の入学に資するよう努めます。

副学長
(教職大学院)
(拡充担当)



森 保之

もり やすゆき

令和3年度から「新生教職大学院」が誕生します。学校現場や教育委員会との更なる連携を深めながら、教職大学院の研究・教育体制の充実と発展に努めます。

附属学校部長



石丸 哲史

いしまる てつじ

大学との連携によって7つの附属学校園における教育実習の充実を図り、イノベーションな研究を推進することによって、教育的価値の創造を行ってまいります。

副理事
(社会連携担当)



大竹 晋吾

おおたけ しんご

大学は、社会状況の変化に対応しつつ、今後の大学の社会連携の在り方を検討しなければなりません。御指導、御支援の程、宜しく申し上げます。

副理事
(国際交流担当)



二宮 毅

にのみや つよし

新型コロナにより海外往来の困難な現状等を踏まえ、今後の更なる安全かつ安定的な国際交流の方策の検討・推進に尽力いたします。

副理事
(キャリア担当)



生田 淳一

いくた じゅんいち

学生一人ひとりが、未来と向き合えるような、自分のよさを見つけられるようなキャリア支援に全力で取り組みます。

事務局長



金子 泰久

かねこ やすひさ

教員養成、教員研修の拠点として地域から信頼される大学を目指し、事務局として全力で取り組みます。

平成31年度福岡教育大学優秀教育実習生賞表彰式を挙

令和2年2月17日(月)に、「平成31年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を挙

この賞は、「実習生としての教育的愛情、使命感の自覚、授業や学級運営等における教育方法の創意工夫、そして同僚と協同しながら切磋琢磨してきた数々の努力と工夫に敬意を払い、その功績を称える」ことを目的として創設され、本年度は12名の学生が受賞いたしました。

表彰式では、櫻井前学長から、受賞した学生一人一人に表彰状及び後援会からの記念品が贈呈された後、「豊かな知を創造し、力のある教員を育てることを目標に掲げ

る本学にとって、皆さんの頑張りは、実に頼もしい限りです。今回の表彰を機に、子どもたちに寄り添い、そして子どもたちの背中を押せるような先生の一步を踏んでいただきたい。また、人と人のネットワークを築き、子どもたちの笑顔のために頑張ってください。」と激励がありました。

その後、学生の代表から、「この賞を受賞できたのは、附属学校や公立学校の先生方をはじめとし、指導に携わってくださった大学の先生方、一緒に実習を乗り越えた仲間、そして実習先の素敵な子どもたちの存在があったからこそと感じています。」と感謝の気持ちが述べられました。また、「実習中は、

上手くいくことばかりでなく、何度も悩みました。でも、学校に行き、子どもたちの笑顔を見ると、頑張らなければと思ひ、やり遂げることができました。この実習を経て、教師という仕事のやりがいを感じ、さらに教師になりたいと思う気持ちが強くなりました。たくさんの経験に感謝し、今後の糧にしていきたいと思ひます。」と力強い謝辞がありました。

表彰式終了後は、学長、理事をはじめご来賓の柴田福岡教育大学後援会会長、各実習校・園から出席いただいた校長・園長・副校長、担任および指導教員等と写真撮影を行いました。



表彰された学生と櫻井前学長(前列中央)

教員採用試験合格率の向上に貢献された参与へ感謝状を贈呈

本学は、教員就職率の向上のために、全学的な取組を実施しています。

その取組の中で、平成19年度から、就職支援アドバイザー並びに参与として、本学キャリア支援センターの就職支援体制の強化に尽力され、また、教員採用試験合格率の向上に多大なる貢献をされた永富淳一参与に、感謝の意を表し、令和2年3月26日

(木)に感謝状を贈呈しました。

感謝状の贈呈においては、櫻井前学長から、感謝状及び記念品が贈呈され、永富参与から、感謝の言葉並びに教員採用試験合格率向上への思いが述べられました。

本学は、今後も教員採用試験合格率の向上に向けて、取り組んでいく所存です。



永富淳一参与(左)と櫻井前学長(右)

教員養成の質向上に関する諮問会議から答申を受領

本学は、平成26年度から教育委員会や学校関係者で構成される「教員養成の質向上に関する諮問会議」を設け、本学からの諮問への答申を基に、これまで教育学部、教職大学院、附属学校の教育課程や指導体制、現職教員への研修機会提供の在り方等の改革に取り組んでまいりました。

本年度は、第3期(平成28年度～令和3年度)中期目標・中期計画において、本学の

ミッションである実践型教員養成機能への質的転換による学士課程教員就職率90%達成に向けた取組方策について議論いただき、令和2年2月21日(金)に同会議の木原議長より、櫻井前学長宛に答申が提出されました。

答申を受け取った櫻井前学長から、「本学がミッションの再定義に教員就職率を目標に掲げてからようやく達成の実現が見え

てきた。本答申については、本学の教育改革の最後の一押しとして捉え、第3期中期目標期間内の目標達成に取り組んでいきたい。」旨の謝辞が述べられました。

本学は、本答申を踏まえ、学士課程教員就職率90%を着実に達成できるよう引き続き取り組んでまいります。



諮問会議の様子



答申文書を受け取る櫻井前学長(右)

福岡女学院大学と教員養成に関する連携協定を締結

令和2年5月21日(木)福岡女学院大学と教員養成の充実を図ることを目的に、連携協定を締結しました。調印式には、福岡女学院大学から、阿久戸学長、伊藤副学長、碓事務部長、福岡教育大学からは、飯田学

長、相部理事、森副学長が出席して行われました。

今回の協定締結により、本学教職大学院へ進学を希望する福岡女学院大学の学生に対する特別選抜の実施や、学生及び教職

員の行事等の交流を行うこととなります。

本学は、本協定の締結により、今後も福岡女学院大学と協力し、多くの優秀な教員を輩出していきたいと考えています。



飯田学長(左)、福岡女学院大学阿久戸学長(右)

6 鞍手高校と“リモート”多文化交流

8月20日(木)午後、福岡県立鞍手高等学校人間文化コースの生徒と本学学生計4名(留学生:3名:韓国・ブラジル・フランスより、日本人学生:1名)が、リモート多文化交流を実施しました。コミュニケーション言語は基本的に英語です。当日は、

- ・鞍手高校生37名が日本文化や鞍手高校などについてプレゼンテーション
- ・グループに分かれて、留学生の母国について質問
- ・高校生から、日本文化についてクイズ出題
- ・留学や英語の勉強についての質疑応答などであっという間に時間が過ぎました。

高校生の声(抜粋)

留学生の、日本文化に対する理解や知ろう

とする態度がわかり、他国の文化理解には、その文化背景の理解が大切だということ学んだ。最初は英語に抵抗があったが、今はそう思わない。積極的に何事にも取り組もうと思った。

本学参加生の声(抜粋)

直接会って交流できなかったのは残念だが、このような形で高校生と話しができて嬉しい。日本文化や日本の高校生について多くを知るチャンスとなった。勉強方法や留学についてもアドバイスできた。

今回は、留学生等が日本の教育現場を体験して、現場理解や、視野の拡大をするともに、高校生がこの多文化他言語空間を

共有し、意見交換することで、将来の夢の実現の一步となる機会となるよう、2校が協力して実施しました。このような状況下でも交流ができることがわかったので、今後より有効な方法を学びながら、各方面で多文化交流を実施したいと感じた1日でした。



リモート交流の様子(グループワーク)

7 第34回 福岡教育大学日研究生・協定留学生研究発表会を開催

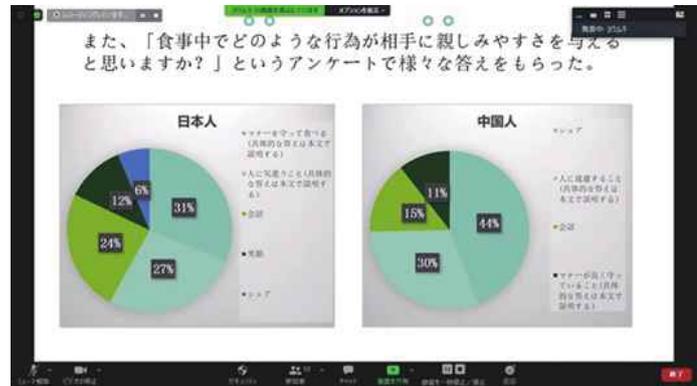
令和2年8月22日(土)に「福岡教育大学日研究生・協定留学生研究発表会」を開催しました。

本発表会は留学を修了する外国人留学生(日本語・日本文化研修留学生及び協定留学生)が、本学で学んだことを踏まえて指導教員と共にテーマを設定・研究し、その成果を発表するものです。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの開催となりましたが、本学学生をはじめ、本学の卒業生や本学での留学を修了した外国人留学生(海外からのリモート参加)、指導教員など計53名の参加がありました。令和2年8月に修了となる計4名の留学生から独自の視点で考察した研究成果が発表

され、質疑応答の時間では積極的に意見交換が行われました。留学生にとって本学での留学生活の集大成として相応しい発表

会となったと共に、参加者にとっても国際的・学際的な知見の深まる価値のあるものとなりました。

※日研究生…日本語・日本文化研修留学生



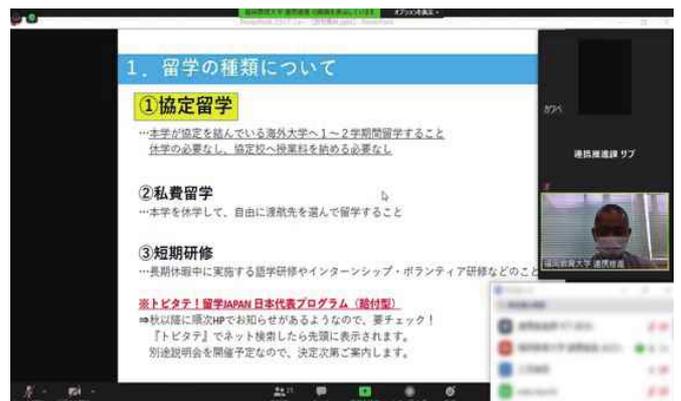
ヨウムキさん(日本語・日本文化研修留学生)の発表

8 「2020年度協定留学学内説明会」を開催

連携推進課主催による「2020年度協定留学学内説明会」を、8月28日(金)に開催しました。コロナ禍のため、今回はオンラインでの実施となり、25名の学生が参加しました。

説明会の趣旨は、大きく2つです。1つ目が、「協定留学の制度について理解してもらうこと」、2つ目が「留学の魅力について知ってもらうこと」です。特に、「留学の魅力について知ってもらうこと」については、協定留学経験者から、写真付きの資料を使って、体験談に基づいた説明があり、参加者から留学の

魅力が十分伝わったという声がありました。参加学生に行ったアンケート結果を分析し、今後も留学の魅力を発信していきます。



オンライン説明会の様子

教員紹介 & 学生から見た先生の魅力

野外での観察・採集から始まる流れを大切に

専門の研究テーマ

「植物形態学」です。植物の形態はきわめて多様性に富んでいます。植生を構成し、光合成を通じて生態系を支える植物の「形」の多様性は、生物多様性の重要な要素の一つです。また、われわれ人間は、有史以前から、形態によって植物の種類を見分け、衣食住や「薬」など、用途に応じて使い分けてきました。大学院在籍中は、主に、植物の種が系統進化する過程で、種子と果実の形態がどのように多様化したかを、ケシ科を材料として研究し、福教大赴任後は、花の雌雄性の時間的変化

や果実の裂開様式の機能的な意義を実証する研究に取り組んでいます。

大学教員に進むことになったきっかけ

大学3年時に配属先として選んだ「植物系統分類学」研究室は、大学教員か博物館等以外への就職と結びつかない分野なので、ここが強いていえば「きっかけ」です。大学院進学を目指して院試を受けましたが不合格、翌年に受験し直して進学し、8年かけて博士の学位を取りました。学位取得前後から条件に当てはま

る大学教員などの公募に手当たり次第に応募も不採用が続き、研究生として大学に籍を置かせて貰いつつ、大学非常勤講師や環境調査委託職員で生計をつなぐ状態が5年近く続きます。十数回目の応募で幸運にも福岡教育大に採用されました。私の場合、大学教員になることを諦める「きっかけ」がなかったために、大学教員になったという方がぴったりかなと思います。

研究成果の教育への還元

野外調査が多い研究分野ですので、学生実験では、野外での観察・採集から始まる流れを大切にしています。この点、自然が豊かな(豊か過ぎる?)福教大は恵まれた環境です。講義でも、実物や画像の活用に努めています。

こだわりの物・考え・モットー

大きな「こだわり」はない(つもり)ですが、些末なこだわりは多い方も知れませんが、例えば、タイトルや見出しに「について」を使わないよう心がけています。

モットーは「運が八割」「偶然が八割」です。

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

福岡教育大学での日々を通じて、希望する進路への道を開くとともに、生涯つきあえる「何か」を見つけて欲しいと思います。



ゼミ風景

学生から見た先生の魅力

なかた まさのり 中田 真典 (中等理科4年)	みむら ゆうき 三村 有希 (中等理科4年)	やまだ えみか 山田 笑未佳 (中等理科4年)
ながい だいき 永井 大揮 (中等理科3年)	はやの かえで 早野 楓 (中等理科3年)	まつもと こういちろう 松本 隆一郎 (中等理科3年)

福原先生は、いつも優しく私たちのことを指導してください。講義型の授業だけではなく、大学内を散策しながら植物についての知識を教えていただけるゼミや授業の時間は、とても楽しく、理科の面白さを実感することができます。私が教師になったら、私たちが福原先生から教えていただいたように、フィールドワークなどを通して理科を学習することの楽しさを伝えられるような授業がしたいと思います。



※集合写真の代わりに一人ずつ撮影した写真を組み合わせて掲載しています

軍侍

初等教育教員養成課程 3年

く どう まさる
九藤 大

私たちサッカーサークル『軍侍(しゃむらい)』は、男女合わせて70人のメンバーで、毎週木曜日に宗像終末処理場で活動しています!サッカー初心者から経験者まで多くの方が在籍しているため、大学からサッカーを始めたい人にも、高校まで部活で頑張ってきた人にもオススメのサークルです。

日頃の練習以外にも、新入生歓迎会や夏のBBQを開催したり、4年生を送り出す卒業パーティーを開催したりしています!今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りのイベント開催が難しくなっていますが、来年以降は状況によって、様々なイベントを企画していく予定です!



『軍侍』では、本気で試合に参加したいというメンバーを募り、春は例年、福岡のサッカーサークルや同好会とのリーグ戦に参加しています!昨年は、九州各県からサッカーサークルが集まるサッカーフェスティバルに参加し、優勝することができました!今年は、12月に開催予定の全国大会出場を目指して、日々練習に取り組んでいます!

これからも仲の良さを武器に、サッカーには真剣に取り組み、イベントはとことん楽しむサークルにしていきます!



サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



音楽堂

中等教育教員養成課程 理科専攻 2年

おお やま と む
大山 朝睦

私たちバンド愛好会『音楽堂』は、男女合わせておよそ60人のメンバーで活動しています。活動内容としては、中庭や大集会室で月に1度行われるライブに向けて、昼休みや放課後、休日に自由に練習しています。『音楽堂』は初心者から経験者まで多くの方がいるため、「音楽が好きの人」「新しいことに挑戦してみたい人」「友達や先輩と仲良くなりたい人」「サークルとバイトを両立させたい人」にぴったりです!

今年度は中止になってしまいましたが、ライブの他にも新入生歓迎会やスポーツ大会、夏のキャンプなど、同級生や先輩との仲を深めるイベントも毎年行っています。

私たちは、バンド単位で日々本番に向けて練習に励み、大勢の前で演奏を披露するのですが、ライブ当日に自分の演奏が終わった際にはとても大きな達成感があります。また、先輩の演奏を見て感動したり、同級生と切磋琢磨しあって大学4年間

で共に成長していく喜びも味わうことができます。人前に出て演奏するという経験は、将来教師になった際にも役立てることができます。

大学生活4年間をバンド愛好会『音楽堂』で充実させてみませんか!





2019年度の歌声発表会(学校行事)の様子

教師としての喜び

私がこの仕事を始めて今年で4年目になりますが、忙しい毎日の中でも、「教師になってよかった」と思える瞬間がたくさんあります。私の関わっている子どもたちはみんな天真爛漫で毎日元気いっぱいです。友達と楽しそうに遊んでいる姿や授業内容をしっかりと聞いて一生懸命に理解しようとする姿を見ているととても元気をもらえます。

教師は子どもたちの人間性を育てる責任ある仕事です。毎日を一生懸命に生きている子どもたちは、毎日少しずつ変化し、成長していています。苦手なことに対しても諦めずにチャレンジする姿、学校行事でみんなで共通の目標に向かって力を合わせる姿、子どもたちの成長を間近で見られることも教師の特権です。そして、このような子どもたちの成長が教師として働く私のモチベーションになっています。

このクラスでよかった!と思えるように

「このクラスが終わる最後の日にクラスの一人ひとりがこのクラスでよかったと思えるような学級にしたい。」学級開きで私が子どもたちに必ず伝えることです。年度始めは子どもも教師もお互いに緊張していますが、授業や日々の関わりを通して少しずつお互いのことがわかってきます。日々の生活で私が心掛けていることは、毎日、子どもたち一人ひとりとコミュニケーションをとることです。おはよう!の朝の挨拶からさようなら!の帰りの挨拶まで、できるだけ多くの子どもたちと会話することを意識しています。子どもたちの頑張りに気づいたときはその良さをきちんと言葉にして伝えること、子どもを叱るときには、本人の気持ちも聞きながら、なぜそれをしてはいけないのか、これからどうなってほしいのかを具



研究授業風景

体的に言葉で伝え、子どもが納得できるまで話をすることを心掛けています。子どもたちとより多く関わり合うことでお互いのことをよく理解し、信頼関係を築くことができます。そういった関係を築くことで、子どもたちは毎日安心して学校に来ることができると考えています。

教師を志すみなさんへ

教師になると自分の受け持つ子どもたち以外にも、保護者、地域の方々、同僚の先生など多くの大人と関わる機会が増えます。そして、教師の仕事はこういった人との繋がりで支えられています。だから、学生のうちから、いろいろな人と積極的に関わり、様々な価値観に触れてください。その経験は、自分の視野を広げることに繋がります。そうして自分の経験値を上げることで、自分から人と繋がるができる人になると、多くの人と喜びや感動を共有できる教師になれるのではないかと思います。



日々の授業風景

那珂川市立片縄小学校

やま さき ゆ み

教諭 山崎 祐未さん

- ・初等教育教員養成課程理科選修
平成27年3月卒業
- ・大学院教育学研究科教職実践専攻
平成29年3月修了



令和3年度から福岡教育大学大学院が変わります！

本学大学院教育学研究科は、高度専門職業人としての教員養成機能を発展させるために、改組します。教職大学院に、教科指導領域(国語科、数学科(算数科)、社会科、理科、英語科、保健体育科)等を加え、現行の3コースから2コース8プログラムを開設します。詳細は、ホームページにてご確認ください。

教職大学院の強み

1 名簿登録期間の2年延長

教職大学院の教育実績が評価され、採用候補者名簿登録期間の2年延長の措置をとる教育委員会が増えています(例:福岡県・福岡市・北九州市)。この場合、学部4年次に教員採用試験に合格した学生は、教職大学院で2年間修学した後教壇に立つことが可能となります。平成31年度・令和2年度入学者のうち各5名が、本制度を利用しています。

2 教員採用試験の特別選考

福岡県、福岡市については教職大学院1年次から、北九州市は修了予定者に対し、教員採用試験において、特別選考(一次試験 筆記免除等)を実施しています(令和元年度実施分)

5 終了後にもいきるネットワーク

教職大学院には、学校長や教育委員会経験者である実務家教員、教育研究の専門家である研究者教員が多数在籍しています。教員や現職教員院生との学び合いを通じて、修了後の教員生活へとつながる心強いネットワークを作ることができます。

3 初任者研修の一部免除

採用後、初任者教員に実施される研修について、教職大学院修了者については、一部免除される教育委員会があります(例:福岡県・北九州市)。例えば北九州市では、校内研修及び校外研修の一部が免除されます。

4 充実した学び(理論と実践の往還)

教職大学院での学びは、実践的なシミュレーション、多種多様な実習、特別支援教育など、充実したものとなっています。理論を学び、多様な実践を経験することで、教員となる心構えができ、教壇に立つ際の自信につながります。

表紙モデルの福教大生

今回の表紙は、8ページ「福教大キャンパスライフ」でインタビューした1~3年生の4名にご登場いただきました。

コロナ禍で授業、部活動・サークル活動、ボランティア、アルバイトなど当たり前だった日常がすっかり変わり、戸惑いながらも、しっかり前を向いて毎日を過ごしていた学生のお話が聞けました。

これからも日々学び、子どもたちの安全を第一に考え、どんな状況でも柔軟に対応ができる先生になってほしいと願っています。

左から	特別支援教育教員養成課程2年	ほらむら いぶき 原村 歩希さん
	初等教育教員養成課程2年	わたなべ みく 渡邊 未来さん
	中等教育教員養成課程書道専攻3年	なかむら りょうた 中村 遼太さん
	初等教育教員養成課程1年	にひら ななみ 仁衛 七海さん



福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation

インターネット(クレジットカード払い)による寄付金の受付を開始いたしました。

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

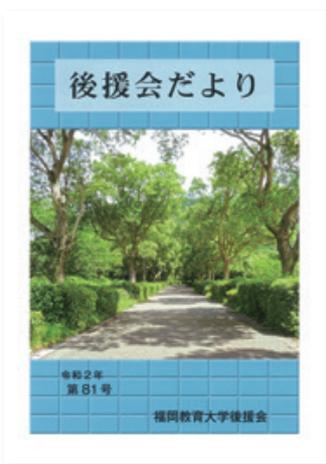
Campus Letter

キャンパスからの便り

後援会

「後援会だより第81号」発行のお知らせ

「後援会だより第81号」を8月に発行し保護者の皆様へ送付いたしました。お手元に届きましたでしょうか。「81号」は学習支援ボランティアに参加した学生の体験談やコロナ禍でのキャリア支援・学生支援や後援会活動についてなどを載せています。ご意見ご要望などがございましたら、下記事務局までご連絡ください。



福岡教育大学後援会 事務局
TEL・FAX:0940-33-8070
E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp

学生支援課

「新型コロナウイルスに注意」立体ポスター？

学生支援課(学生センターの4～7番窓口)から、学生の皆さんに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な注意喚起やお願いをしています。

窓口でも「目に見えない」ウイルスを「目に見える」ようにして、注意を促しています。学生指導担当副学長、甲斐先生のお手製です。ディスタンス確保や手洗いなどで、感染防止に努めましょう！



同窓会城山会

待望の本年度活動をスタート

新型コロナの流行により4月以来二度にわたり延期してきた福岡教育大学同窓会城山会の「第1回役員会」を去る9月19日(土)に開催しました。コロナ禍中にあっても、城山会活動を十分に機能させ、未来奨学金支援をはじめ現役学生や若手教員を支援する活動を着実に進めよう、という方針が確認され活気溢れる会となりました。



福岡教育大学同窓会 城山会事務局
TEL・FAX:0940-33-2211
E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

健康科学センター

MESSAGE No.120 2020 秋号

今回の内容は、「人が場の雰囲気を作る？環境が人を作る？」、「心の手当て、していますか？」、「シンクロシティ」、「コロナウイルスのことで心の動き」、「人は水分を1日にどのくらい摂取するの？」、「免疫力をあげよう」など盛りだくさんです。表紙は、初等教育2年の松本留奈さんのデザインです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP
<https://hokenctr.fukuoka-edu.ac.jp/>



どんなベストセラーよりも、
生徒の日記を読むのが
たのしい。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

(2014年度卒業生)



きょう蒔いた種は、
いつ花を咲かすだろう。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

(2016年度卒業生)

Joyama 通信 vol.48

福岡教育大学広報誌第48号 2020年10月30日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー



携帯電話サイト



Twitter



YouTube



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。